

第14号

- ・ニューフェイスドクター紹介
- ・地域包括ケア病棟について
- ・レスパイト入院のご案内
- ・新型コロナウイルス感染症について
- ・シリーズ健康生活 (1. 骨粗しょう症)



〒331-8625
埼玉県さいたま市北区宮原町1丁目851

☎ 048-663-1671 (代表)

ニューフェイスドクター紹介

新しくさいたま北部医療センターに赴任した医師を紹介いたします。

医師
かたみ じゅん
片見 順

診療科 泌尿器科
出身大学 日本大学
卒業年 平成31年



2023年4月より赴任いたしました泌尿器科の片見順と申します。

日本大学を卒業後、慈恵医科大学泌尿器科へ入局し東京都新橋の附属病院、柏病院等で修練を積み現在に至っております。
当院では排尿障害、結石等泌尿器科一般疾病から悪性腫瘍、手術症例、化学療法まで広

く診療を行っております。一期一会ではなく患者さんの経過や今後のこと等その方にあつた診療ができるよう寄り添った診療を心掛けてまいります。また近隣の先生方からは多くの患者さんをご紹介いただき、地域医療に少しでも貢献ができるよう日々精進してまいります。
今後ともよろしく願いたします。

医師
さいま よしなり
齊間 至成

診療科 眼科
出身大学 金沢大学
卒業年 平成30年



2023年4月より赴任しました、眼科の齊間至成と申します。埼玉県の出身で、金沢大学を卒業後、自治医科大学附属さいたま医療センターや日本大学医学部附属板橋病院で研鑽を積んで参りました。

当院では、眼科一般診療はもとより、加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症などに対する抗VEGF抗体硝子体注射や網膜光凝固術、後発白内障に対するYAGレーザー

ザー治療などを行っております。また、翼状片手術や2泊3日での入院下白内障手術といった手術に加えて、自治医科大学附属さいたま医療センターから梯彰弘名誉教授を招聘し、網膜前膜に対する硝子体手術も行っております。

原則予約なしで外来受診して頂けませんが、木曜日のみ1診体制につき完全予約制となっております。

地域の皆様方のお役に立てるよう頑張りたいと思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

医師

なかだ ともひろ
中田 智大

診療科 歯科口腔外科

出身大学 日本歯科大学

卒業年 平成30年



2023年4月より赴任いたしました中田智大と申します。

大学卒業後、慈恵医科大学附属病院歯科口腔外科で経験を積んできました。

当院では、親知らずの抜歯や口腔粘膜疾患、顎関節症などなど口腔外科領域の疾患を診療しております。

地域の皆さんの力になれるように頑張っておりますので、よろしくお願ひいたします。

医師

いとう たつおみ
伊藤 竜臣

診療科 整形外科

出身大学 埼玉医科大学

卒業年 平成29年



2023年4月より赴任いたしました伊藤竜臣と申します。

埼玉県行田市出身で埼玉医科大学を卒業後、初期研修を埼玉医科大学国際医療センターで行い、埼玉医科大学病院整形外科へ入局いたしました。

地域の皆さんが健やかに暮らせるよう精進いたします。

医師

ふくい れいな
福井 伶奈

診療科 皮膚科

出身大学 日本大学

卒業年 平成29年



2023年4月より赴任しました福井伶奈と申します。

自治医科大学附属さいたま医療センターより1年間、派遣として参りました。

出身は埼玉県で小学校の途中まで宮原、その後は高校卒業まで大宮で育ちました。馴染みのあるこの地域で診療に臨めること、非常に嬉しく思っております。

もとより当院にかかりつけで通院されている患者様はもちろん、新規の患者様も皮膚トラブルでお困りのことがありましたらご相談ください。

地域の皆様のご期待に添えるよう日々精進して参りますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

医師
やまざき のぶと
山崎 信人



診療科 外科
出身大学 東邦大学
卒業年 平成27年

令和5年4月1日付で東邦大学医療センター大森病院より赴任いたしました山崎信人と申します。出身は埼玉県さいたま市で、東邦大学卒業後に千葉県、東京都、埼玉県の市中病院や大学病院で研修、修練を行ってきました。

当院外科では鼠径ヘルニアを始めとする腹壁体表疾患、および急性虫垂炎や急性胆嚢炎を始めとする良性疾患、ならびに胃癌や大腸癌といった悪性腫瘍など幅広い疾患に対して、内科と密に連携をとりながら診療にあたっています。鏡視下手術を積極的にを行い、患者さんの負担を軽減することで早期に退院できるよう努めています。また、抗がん剤治療も積極的に行っており、手術だけでは治療が難しいと判断された病変に対しても治療を行っています。

日々の診療において、患者さんの信頼に応

えるべく、努めて参ります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

医師
つばい るみこ
坪井 瑠美子



診療科 消化器内科
出身大学 旭川医科大学
卒業年 平成23年

2023年4月より自治医大さいたま医療センターから赴任しました坪井 瑠美子と申します。これまで自治医大さいたま医療センターや仙台厚生病院で消化器内科の研究を積んで参りました。内視鏡、肝疾患、IBDなど、幅広く対応させていただけたらと思えます。内視鏡は患者さんにとっても大変な検査ですが、なるべく苦痛のないよう心がけております。地域の先生方や患者さんの期待に応えられるよう、精一杯診療します。どうぞ宜しくお願い致します。

医師
やまだ ともこ
山田 朋子



診療科 皮膚科
出身大学 富山医科大学薬科大学
卒業年 昭和64年

2023年4月より赴任いたしました山田朋子と申します。今回が3度目の赴任となりますので、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。1年間の自治医大さいたま医療センターでの勤めを終え、戻って参りました。

出身は富山県ですが、最近では北陸新幹線もあって、大宮からは便利になりましたので、ちよくちよく帰省しております。

この4月から、福井伶奈先生との2名体制に戻ります。皮膚科一般診療の他に、水疱症や感染症の診療、乾癬の生物学的製剤、小手術、紫外線療法、生検、画像診断、大学病院からご自宅・施設に戻るまでのサポートなど、病院皮膚科の特性を活かした治療を地域の皆様に提供していきたいと思っております。今後もどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域包括ケア病棟について

当院では、急性期治療後のリハビリ、在宅復帰に向けた医療や支援を行うため、**地域包括ケア病棟58床**を開設しております。

●地域包括ケア病棟とは

急性期治療を終了し、すぐに在宅や施設へ移行するには不安がある患者さんやもう少し入院治療を必要とする患者さんに対し、退院に向けて医療管理、診療、看護、リハビリテーションを行うことを目的とした病棟で、**在宅あるいは**

介護施設に復帰予定の方が対象となります。

入院期間は、状態により調整いたしますが、**60日間**を限度としております。

●地域包括ケア病棟入院の対象となる方

- ①入院治療が必要だが症状が安定し、在宅に向けてリハビリテーションが必要な方
- ②在宅や介護施設での療養準備が必要な方
- ③介護者の病気、家族の事情で一時的に在宅介護が困難な方

護が困難な方

●入院に対する留意点

一般的な血液検査、X線検査、投薬治療は可能ですが、一般病棟で行うような高額な医薬品の投与や特殊な検査などには対応できません。病状の変化により主治医が集中的な治療が必要と判断すれば、一般病棟に変更する場合があります。

レスパイト入院のご案内

レスパイト入院とは、自宅療養中の患者さんのご家族が患者さんを見られない状況にある際に、患者さんに入院していただきご家族に代わってお世話をさせていただくことでご家族を支援するシステムのことです。

”JCHOさいたま北部医療センターは、在

宅で介護をされている家族の支援“を推進するため、地域包括ケア病棟でのレスパイト入院を受入れています。

①ご家族が休息をとる、②ご家族が冠婚葬祭に出席するために不在になる、③ご家族が入院する時などにご利用できます。

●入院の対象になる患者さん

- ①医療的措置が必要な患者さんで、体調が安定し退院時に自宅へお戻りいただける方
- ②入院治療期間（他院・当院でのレスパイト利用も含め）が通算で60日間をこえている場合



は、入院からご自宅に戻って3カ月以上った患者さん

●ご注意事項

(治療目的の入院ではないので下記の点にご注意ください)

① 1回の入院期間は1泊2日〜最大14日間を限

度とし、月に1回までのご利用になります。

② 入院中に治療・検査等はありません。

③ 内服薬、点眼薬・インスリン・軟膏等、栄養剤、胃薬・ストマなどの医療材料、オムツなどはご持参ください。

④ 入院は平日午後とさせていただきます。

まずは、かかりつけ医又は担当ケアマネジャーにご相談ください。

新型コロナウイルス感染症

「5類感染症」移行に伴う 当院の対応について お知らせ

5月8日より新型コロナウイルス感染症 が「5類感染症」となります。

2019年12月より新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)は、世界各地で猛威を振るい人々に多くの影響を与えてきました。皆様の生活にも多くの変化が生じたことと思います。当院では、新型コロナウイルスにかかり自宅療養が難しい方の入院の受入れや、発熱外来で検査の対応を行ってきました。

2023年5月8日より新型コロナウイルスの感染症法上での位置づけが、インフルエンザと同等の「5類感染症」へと移行となります。これを受け、当院の対応についてお知らせいたします。

2023年5月8日からの 当院の対応

2023年5月8日より当院の対応は、以下の通りとなりました。

■来院時：来院時は、マスクを着用し、入り口での手指消毒、検温をお願いします

■入院時：入院前に新型コロナウイルスのPCR検査を受けていただきます

■面会：原則的には禁止しておりますが、医師が面会必要と判断した場合は個室に限って許可いたします。

発熱外来終了について

当院の発熱外来は、2023年5月25日を以て終了致します。終了後は、内科新患外来への受診となります。発熱や新型コロナウイルスを疑う症状がある方は、入り口での検温を行ったあと、初診受付にお越しください。問診表を記入していただき、内科新患外来へご案内となります。

さいごに

地域の皆様には、当院の感染拡大防止のため、今後も多くのご不便をお掛けするかと思えます。今後の新型コロナウイルスの発生状況によって、当院の対応も変わっていきます。対応が変わった際は、当院ホームページなどでお知らせいたします。来院の際は、ホームページや受付に確認いただき、ご協力をお願いいたします。

骨粗しょう症 について



骨粗しょう症の治療薬と 副作用のお話

● 誰でもかかる骨粗しょう症

骨粗しょう症は①女性ホルモンの低下と、②加齢が原因ですから誰もがかかる可能性があります。女性では比較的若い時期から骨粗しょう症になりますし、男性でも骨粗しょう症にかかります。女性では50歳台後半の約20%、70歳台後半の約50%が骨粗しょう症になっていると言われています。少し重いものを抱えたり、かがんだりただで腰や背中が痛くなり病院を受診したら背骨が折れていた、なんてことも少なくありません。X線撮影をしたら背骨が折れていた、なんてこともあります（いつのまにか骨折）。横になるとか、起きあがる動作が腰や背中の痛みで大変なときは、背骨が骨折しているかもしれません。

● 骨粗しょう症の治療

骨粗しょう症は骨の新陳代謝（古い骨を取り除いて新しい骨に作り直すこと）とともに進行します。骨は①柔軟性や強さを維持するためと、②血液の中のカルシウムを調整するために新陳代謝をおこなっていますが、歳をとるにしたがって取り除いた量と同じだけの骨が作れなくなってきました。つまり新陳代謝のたびに骨が減り、ついには骨折するほど弱くなります。そこで骨粗しょう症の治療では骨を取り除く細胞（破骨

細胞）を減らして新陳代謝を止めます。新陳代謝を止めると骨を作る細胞（骨芽細胞）も働かなくなるので骨はそれほど増えなくなりませんが、骨にカルシウムがたまるので骨密度が上がります。折しにくくなります。治療をしていない患者さんと較べると、部位にもよりますが約30〜50%も骨折の危険性が低下します。これが骨粗しょう症治療の基本的な考え方です。朝起きてすぐに内服する薬や（毎日、週1回、月1回の3種類があります）、半年に1回の皮下注射、月に1回の静脈注射や点滴、年に1回の点滴があります。

● 新陳代謝を止める薬の副作用と予防

前に書いたように新陳代謝には役割があるので、止めることによる副作用があります。その一つとして①血液の中のカルシウムの減少（低カルシウム血症）があります。カルシウムが下がると、筋肉がうまく働かなくなると、心臓が止まってしまふ危険があります。体は血液の中のカルシウムが下がらないような仕組みを使ってなんとか命を守ろうとします。この時に働くのがビタミンDや副甲状腺ホルモンです。実際に骨粗しょう症治療中の患者さんの血液検査をすると、ビタミンDが消費されて下がっていたり、血液のカルシウムを上げようと副甲状腺ホルモンが上がっていたりすることも少なく

ありません。カルシウム不足では治療がうまくいきません。大事なことは骨粗しょう症治療中は普段よりも多くのカルシウムを摂ることです。日本人は1日平均500mg程度しかカルシウムを摂っていませんが、骨粗しょう症治療中には1000mg程度のカルシウムが必要なことがこれまでの研究で分かっています。一方、ビタミンDの低下に対して活性型ビタミンD誘導体が骨粗しょう症治療薬といっしょに処方されていることをよく見かけますが、腎機能が低下することや血管の石灰化を進行させることが報告されておりお勧めできません。

また、骨の新陳代謝を長く止めていると②あの骨が腐るとか(顎骨壊死)、③腿の骨が折れる(非定型大腿骨骨折)といった危険性が稀ですがあります。②の予防のためには定期的に歯科を受診して口の中の衛生管理をおこなっていただく必要があります。また骨密度がある程度高くなったら1年程度お休みすることで③の危険性を約70%も減らすことができます。しかし、半年に一回の皮下注射では8カ月以上お休みすると魔法が解けたように背骨が連続して骨折することが分かっておりお休みすることはできません。



▲ 71歳女性の腰椎 X線像

61歳に最初の骨折を経験。その後10年間腰部背
痛に苦しんだ。第12胸椎、第1～4腰椎に骨折
がみられる(矢印)。

● 骨折の危険性の高い骨粗しょう症

通常の骨粗しょう症より重症な患者さんは「骨折の危険性の高い骨粗しょう症」と診断されます。①すでに背骨が2つ以上骨折している患者さんや(背骨は胸椎と腰椎で合計17あります)、②ひどく潰れてしまった背骨が1つ以上ある患者さん、③骨密度がとても低い(若い人の平均骨密度の60%以下)患者さんです。このような患者さんはかなり骨が弱くなっていると考えられるので、新陳代謝を止めただけでは十分に強い骨にはなりません。骨を増やすと同時に良い骨に作り直すための皮下注射をお勧めします。この注射薬には毎日自分で注射するもの、週に2回自分で注射するもの、週に1回病院で注射するものがあります。一時的で心配はないのですが、頭痛がしたり気分が悪くなったりといった副作用が約20～40%の患者さんにみられます。①注射の前に十分に水分をとっておくことや、②夜寝る前に打つこと、③お腹に打つこと、④体調の良い時には打たないことなどで予防します。患者さんは、決められた通りに欠かさず注射をしなければいけないと思いがちですが、都合のよくない時などは1週間程度お休みしても良いと思います。

副作用でどうしても続けられないという患者さんには、月に1回の病院でする皮下注射を勧

めまず。この薬は骨を増やす作用がとて強いのですが、良い骨に作り直す作用はありません。重大な副作用の一つとして低カルシウム血症があります。この薬に限らず骨粗しょう症の薬はいずれも骨にカルシウムを溜め込む作用があり、逆に血液からカルシウムを奪います。骨粗しょう症の薬を「カルシウムの薬」と言っている患者さんをしばしば見かけますが、これは大きな間違いです。骨粗しょう症治療中は体が沢山のカルシウムを欲しがるので通常より多く摂るよう心がけなければいけません。

●骨粗しょう症治療中の副作用を予防するために

骨粗しょう症治療の基本は骨の新陳代謝を止めることです。しかし、長く新陳代謝を止めたままにすると、新陳代謝を止めたことによる副作用が起きやすくなります。そこで、比較的若い50歳台後半から70歳台前半の女性患者さんには、骨で女性ホルモンの働きをする薬を勧めています。女性ホルモンの低下によって骨の新陳代謝が速まるのを適度に調整してくれます。本来は骨の柔軟性や強さを維持するための新陳代謝ですから、比較的若いうちは、運動などで骨を作る細胞を刺激することで新陳代謝とともに骨が増える可能性があります。さらに、海外での研究では、この薬によって乳がんが約60%

低下したことが明らかになっており、その年頃の女性にはうってつけとも言えます。しかし、70歳台後半の患者さんの骨折を防止するには効果が不十分です。骨の新陳代謝を止める薬を使用しなければいけません。その副作用と予防については前に書いた通りです。また、いずれの治療にしても十分なカルシウムを摂ることが重要です。栄養補助食品を利用しても良いと思いますよ。

骨粗しょう症の治療は長い期間にわたります。骨折も副作用も防いで寿命の続くかぎり楽しく過ごしましょう。

地域医療連携室長

整形外科 診療部長

骨粗鬆症学会 評議員

骨形態計測学会 理事

田中 伸哉

